

くすのきだより



令和8年2月27日
来迎寺小学校
3月号

地域と共に子どもたちの笑顔を支える「新しい絆」の形

教頭 沼田 雄二郎

校庭の桜の蕾が日増しに膨らみ、春の訪れを告げています。令和7年度の締めくくりにあたり、この一年間、本校の教育活動を多方面から支えてくださった保護者の皆様、地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

「できる人が、できるときに、できることを」。今年度、来迎寺小学校学校運営協議会（来小はぐくみ会）が発足し、コミュニティ・スクールとしての歩みを始めた本校が、何よりも大切にしてきたのは「持続可能な活動」であることです。

「学校のために何かをしなければ」という義務感ではなく、「できる人が、できるときに、できることを行う」。この意識を皆様と共有しながら、「無理のない参画」が子どもたちの豊かな学びに繋がるように、今年度もさまざまな活動に取り組んでまいりました。

特に印象深いのは、子どもたちの活動を間近で支えていただいた「新たな教育活動ボランティア」です。1年生給食補助・掃除補助・下校見守りでは、年度当初の1年生をサポートしていただきました。夏のプール監視補助、遠足などの校外活動引率補助では、安心安全な活動を多くの目で見守っていただきました。家庭科のミシンや図工のノコギリを使う授業では、きめ細かなサポートのおかげで、子どもたちは「できた!」という達成感を味わうことができました。

また、「おやじの会」の皆様には、夏祭りや秋の縁日などの開催を通じ、子どもたちに忘れられない笑顔の時間をプレゼントしていただきました。こうした「楽しい体験」の裏にある大人たちの熱意を、子どもたちは肌で感じ取っています。

さらに、今年度2回行った「八橋旧跡保存会」のみなさんと6年生児童、中学生による、無量壽寺のかきつばた合同整備作業では、世代を超えた交流の中で、郷土を愛する心が育まれました。

こうした取組のなかで、ボランティアの皆様が笑顔で活動してくださる姿、地域の方々が温かく声をかけてくださる姿、それらすべてが、子どもたちにとって「自分たちは地域の方に支えられている」という安心感に繋がっています。

三月は、これまでの歩みを振り返り、次なるステップへと思いを馳せる月です。私たちはこれからも、皆様との絆を大切に、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの豊かな成長を支える「地域と共にある学校」を目指してまいります。肩の力を抜きながら、それでも心はしっかりと繋がって。一年間の温かなご理解とご協力に、改めて深く感謝申し上げます。